

「震災と私」⑥

3月11日に発生した東日本大震災、テレビに映し出される地震、津波の映像に衝撃と恐怖を感じた。私の住んでいる山口県では地震の揺れも、津

波も全くありませんでした。これが本当に日本で起きていることなのか信じられない気持ちでした。翌日から新聞は、連日広告のスペースを割き、見出しの文字や写真を大きくしてその惨状を伝えるものでした。

近年、私は新聞と自画像をテーマにして制作をしています。それは毎日、新聞紙に自画像を描いた

のようなことほどでもないかと思っていました。

震災から一ヶ月が経つ

頃、私は少しずつ作品のことを考えるようになった。そして今、新聞を集めておかなければ、後では手に入らないと思い、3月12日から約

一ヶ月分の新聞を取り寄せました。朝日、毎日、読売、産経、岩手日報、河北新報、福島民友、石

巻日、中国、山口他と。これらを仕分けしてみると、1100枚近い紙面になりました。そして、これに8種類の表情をし

50年後、100年後の人達に見てもらいたい 「3・11から」新聞と自画像展

吉村 芳生

た自分をシルクスクリーンで刷りました。顔は8種類ですが、新聞は全て違うので同じものはありません。

1100枚近い作品の中から1点、震災から1週間経って被災状況をまとめた紙面を、2100

0枚印刷し、サインとエディションを入れて積み上げ、立体作品を作りました。21000枚とい

う数は、この震災で亡くなられた方と行方不明の方のおおよその数です。

私は、個展を前にして100万円の義援金を振り込みました。そして、被災地を見ておかなければと仙台から東松島へ行きました。津波にさらわれて全く手付かずの状態の家々がありました。

私は、「新聞と自画像」をテーマに作品を作り続けるからには、この世に起こる全てのことに、自分とは何か、この世とは何か、問い続けなければならないと思うのです。

(画家)

※吉村芳生展は7月8日〜16日ギャラリー川船(東京都中央区京橋)にて開催された。



個展会場：壁には震災を伝える新聞に刷られた自画像作品、床には21000枚の作品を3列に重ねた立体作品が置かれた。